

35 つまもと眼科の 快適 めざせ 裸眼生活
～レーシック治療コラム～

老眼は治るの？ ①

老眼とは、加齢により目の中のピントを調節する筋肉が衰え、遠くから近くにピントを合わせることができにくくなる状態です。したがって、遠くがよく見えている人ほど老眼年齢になると近くが見えにくくなる、というようになります。

このような現象は、だいたい45歳前後から明らかにになってきます。また、ピント調節の筋肉の衰え



つまもと眼科
津間本裕一院長

のほか、水晶体が年齢とともに硬くなって厚みが増え、調節力が落ちていく、ということもあります。こうした老眼に対しては、点眼などの薬による治療で効果があるものはないようです。

老眼に対しては、矯正法として老眼鏡を用いることが基本ですが、最近では遠近両用のコンタクトレンズもあります。しかし、手術もあります。

さらに、白内障手術の際に目の中に入れる眼内レンズに遠近両用のものを用いたり、老眼用のレーシックもあります。遠近両用の眼内レンズは良好な結果が得られていますが、老眼レーシックの成績はまだ実用化には遠いようです。

▼Oscar (4 in 1) vision
つまもと眼科 (西条岡町 3〜25)

36 つまもと眼科の 快適 めざせ 裸眼生活
～レーシック治療コラム～

老眼は治るの？ ②

「近視がある人は老眼にならない」といわれることがありますが、厳密にはこれは正しくありません。

老眼は近視があろうとなかろうとすべての人に起こります。近視がある人は、もともと近くにピントが合っているため、老眼になったとしても裸眼で手元が見えるわけです。もちろん、近視があってもコンタクトや遠方

用の眼鏡をかけたままであれば、近視のない人と同じように近くは見えづらくなりません。

これはレーシックを受けても同様で、年齢とともに手元は見えづらくなってきます。ですので、年をとってから近くを見ることを重視される方は、レーシックは受けるべきではないかもしれません。もちろん、老眼鏡をかければ済む話ではありませんが…。

私自身も近視ですが、手元が見えないと大変困る仕事をしていますので、(なにせ手術が仕事です)で、レーシックは受けていません。引退してゴルフさんまの日々を送れるようであれば、手術を受けるかもしれませんね。



つまもと眼科
津間本裕一院長

▼Oscar (4 in 1) vision
つまもと眼科 (西条岡町 3〜25)